

問1 佐賀県の姉川城跡のように、南北朝時代に築城された城郭の歴史をたどると、当時の日本が深刻な内乱状態にあったことが分かります。このような社会情勢の中で、1392年に南朝が北朝に譲歩する形で合一を成功させ、室町幕府の全盛期を築いた人物が行った政策として正しいものはどれですか。 (2019年 佐賀公立入試 類似)

- 鎌倉に幕府を開き、守護・地頭を設置した。
- 南北朝の合一を実現し、明との間で勘合貿易を始めた。
- 分国法を定め、戦国大名としての地位を確立した。
- キリスト教の布教を禁止し、鎖国体制を完成させた。

問2 室町幕府の政治組織において、足利氏の一門から選ばれ、将軍に次ぐ最高の役職として将軍を補佐し、政務を統括した職を何といいますか。 (2024年 山梨公立入試 類似)

- 管領
- 執権
- 評定衆
- 六波羅探題

問3 鎌倉時代において、1221年の承久の乱の後に北条泰時が京都に設置した、朝廷の監視や西国の統治を目的とした機関はどれか。 (2021年 東京都公立入試 類似)

- 六波羅探題
- 鎮守府
- 鎌倉府
- 大宰府

問4 1333年に鎌倉幕府が滅亡した直後、後醍醐天皇が公家を重用して始めた、天皇自らが政治を執り行う新しい政治体制を何といいますか。 (2021年 愛媛公立入試 類似)

- 建武の新政
- 院政
- 摂関政治
- 大政奉還

問5 平安時代の初期、遣唐使に従って唐に渡った最澄や空海は、当時の中国で流行していた新しい仏教を日本に伝えました。このうち、空海が帰国後に高野山を拠点として広めた教を何といいますか。 (2025年 千葉公立入試 類似)

- 真言宗 (密教)
- 浄土宗
- 天台宗
- 禅宗

問6 「正長元年 (1428年) より以前の借金はすべて返さなくてよい」という趣旨の言葉が当時の石碑などに刻まれている資料があります。このような要求を掲げて農民らが団結し、実行使に及んだ背景について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2019年 鹿児島公立入試 類似)

- 貨幣経済の浸透により、農民が土倉などの高利貸しから借金をして苦しんでいたため
- 太閤検地によって厳しく土地を調査され、重い年貢を課せられるようになったため
- 幕府がキリスト教を禁止し、信者である農民たちに激しい弾圧を加えたため
- 元寇による軍役の負担が重く、恩賞も十分に与えられなかったため

問7 室町時代の商業の発達について述べた文として、当時の状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 奈良公立入試 類似)

- 月3回開かれていた三斎市に加え、経済の活性化に伴い月6回開かれる六斎市が増加した
- 鎌倉時代に各地で見られた定期市は、室町時代の戦乱の影響を受けてその件数が大きく減少した
- 定期市は幕府や守護大名などの武士のみによって厳格に管理され、農民の参加は禁止された
- 定期市で売買される品物は、中国からの輸入銭や高級な絹織物などの贅品に限定されていた

問8 中世に成立した「座」という組織の仕組みと、その目的について説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)

- 幕府から全国一律の商業税を免除される代わりに、街道の治安維持を担当した。
- 公家や寺社に税を納めることで、特定の商品の製造や販売を独占する権利を得た。
- 農村の有力者が集まり、村の掟を定めることで領主の支配から自立した運営を行った。
- 江戸時代の商人が幕府の許可を得て、物価の安定を図るために結成した。

問9 鎌倉幕府が滅亡した翌年の1334年、京都の二条河原に掲げられた文書には、「夜討ちや強盗が横行し、天皇の偽の命令 (綸旨) が乱発され、急に大名になる者がいる一方で路頭に迷う者がいる」という異常な社会状況が七五調の形式で記されました。この風刺詩が書かれた背景にある政治状況として最も適切なものはどれですか。 (2021年 島根公立入試 類似)

- 後醍醐天皇による建武の新政において、武士の慣習を軽んじた急進的な改革や、土地の権利をめぐる不公平な裁定により社会が混乱していた。
- 執権の北条氏が政治の実権を握り、有力な御家人の勢力を排除したことに対して、全国の武士が反乱を繰り返していた。
- 蒙古襲来 (元寇) 後の恩賞不足により、生活が苦しくなった武士たちが「悪党」となって略奪を行い、幕府の権威が失墜していた。
- 足利尊氏が征夷大将軍に任命され、武家政権を再興しようとしたが、これに反対する公家たちが激しく抵抗し、都の治安が悪化していた。

問10 室町時代に惣村が発達し、農民たちが強い団結力を持つようになった背景として、当時の村の運営実態について述べた文として最も適切なものはどれですか。 (2017年 岡山公立入試 類似)

- 灌漑用水の管理や入会地の利用を共同で行う必要があり、農民同士が連帯して領主と交渉した。
- 江戸幕府の五人組制度によって、農民が相互に監視し合いながら年貢を納める仕組みが作られた。
- 武士が土地を直接支配する地頭請が普及したため、農民は武士の指示に従ってのみ村を運営した。
- 商業の独占権を持つ「座」が村を統治し、農民は商人たちの許可を得て農業を行った。

問11 沖縄島において三つの勢力が争っていた時代を終わらせ、1429年頃に首里を首都とする統一国家を建国した人物は誰ですか。 (2023年 富山公立入試 類似)

- 尚巴志
- 足利義満
- 北条時宗
- 山田長政

問12 室町時代の社会において、物資の流通や経済活動に従事した人々の説明として、当時の「馬借」の活動を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 千葉県公立入試 類似)

- 港町や川港に居住し、船を利用して水上輸送や商品の保管を行った
- 馬を利用して陸上の物資輸送を担い、時には徳政一揆の中心勢力にもなった
- 幕府や公家に税を納める代わりに、商品の販売や製造の独占権を得た
- 都市部で質屋を営み、武士や民衆を対象に高利で金銭を貸し付けた

問13 足利義満が行った外交政策と国内統治に関する記述として、歴史的な事実と一致するものはどれですか。 (2022年 岐阜公立入試 類似)

- 明の皇帝から「日本国王」の称号を授け、朝貢の形式をとって貿易を行った。
- 分国法を制定して守護大名の権限を制限し、幕府の直轄領を全国に拡大した。
- 元 (モンゴル帝国) の侵攻を退けた後、博多に防塁を築いて防衛を強化した。
- 関所を撤廃して楽市・楽座を導入し、自由な商工業の発展を促した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 南北朝の合一を実現し、明との間で勘合貿易を始めた。	足利義満は1392年に南北朝の合一を実現して国内を安定させた後、対外的には明（中国）との間で「日本国王」として勘合貿易を開始しました。各地に姉川城のような城郭が築かれた動乱の時代から、幕府が外交権と経済権を握る安定期へと移行させた点が大きな特徴です。選択肢にある守護・地頭の設置は源頼朝、鎖国の完成は徳川家光の功績です。
問2	答え 1 管領	室町幕府では、将軍を補佐する最高職として管領が置かれました。鎌倉幕府における最高職である執権と混同しやすいため、時代背景とセットで覚えることが重要です。管領は、足利氏の一族である細川氏、斯波氏、畠山氏の3つの家系から交代で選ばれました。
問3	答え 1 六波羅探題	後鳥羽上皇による承久の乱を鎮圧した鎌倉幕府は、それまでの京都守護を廃止し、新たに六波羅探題を設置しました。これは、乱の再発を防ぐために朝廷の動きを厳しく監視すること、および西国の武士たちの統制や裁判を行うことを目的としていました。北条泰時や北条時房が最初の任命者として知られています。
問4	答え 1 建武の新政	鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇は、それまでの武家政治を否定し、天皇が直接政治を行う理想を掲げました。この政治体制は「建武」という元号から名付けられましたが、公家を極端に優遇する内容であったため、武士たちの強い反発を招くことになりました。
問5	答え 1 真言宗（密教）	空海は唐の都である長安で密教の奥義を学び、帰国後に真言宗を開きました。一方、最澄は比叡山を拠点に天台宗を広めました。これらは平安貴族の現世利益（目に見える幸せ）を願う信仰と結びつき、広く受け入れられました。
問6	答え 1 貨幣経済の浸透により、農民が土倉などの高利貸しから借金をして苦しんでいたため	室町時代には農業技術の向上や市場の発展により貨幣経済が広がりましたが、同時に生活に困窮した農民が土倉や酒屋から高い利息で借金をする状況も生まれました。支払いが困難になった農民たちは、団結して「徳政」をスローガンに掲げ、借金の帳消しを求めて一揆を起こしました。なお、太閤検地は安土桃山時代、キリスト教弾圧は江戸時代、元寇の影響による不満は鎌倉時代のことです。
問7	答え 1 月3回開かれていた三斎市に加え、経済の活性化に伴い月6回開かれる六斎市が増加した	室町時代は農業や手工業の発展により、商品の流通が活発になりました。これに伴い、特定の日に開かれる「定期市」の回数も増加し、鎌倉時代に一般的だった月3回の「三斎市」に代わり、月6回の「六斎市」が各地で見られるようになりました。ここでは農作物や手工業品、塩、魚などの生活必需品が広く取引されていました。
問8	答え 2 公家や寺社に税を納めることで、特定の商品の製造や販売を独占する権利を得た。	座の構成員は、本所（公家や寺社）に対して礼銭（税）を支払うことで、他の商人がその商品を扱うことを排除する独占権や、関所の通行税免除などの特権を得ていました。これは、強力な国家権力がまだ不十分な時代において、商人が自らの商売や身の安全を守るための仕組みでした。
問9	答え 1 後醍醐天皇による建武の新政において、武士の慣習を軽んじた急進的な改革や、土地の権利をめぐる不公平な裁定により社会が混乱していた。	建武の新政は、後醍醐天皇が鎌倉幕府を倒した後に始めた天皇中心の政治です。しかし、武士の土地所有を認める基準が不明確であったり、武士の慣習を無視して公家を優遇したりしたため、武士たちの中に強い不満がたまりました。二条河原落書は、こうした政治の失敗や、それに伴う治安の悪化、社会の逆転現象を痛烈に批判・風刺した史料です。
問10	答え 1 灌漑用水の管理や入会地の利用を共同で行う必要があり、農民同士が連帯して領主と交渉した。	惣村が発達した大きな要因は、農業生産を維持するために不可欠な「水（灌漑用水）」や、肥料・燃料を得るための山林（入会地）の管理を共同で行う必要があったことです。この共同作業を通じて農民の結束が強まり、個々の農民では太刀打ちできない領主に対しても、村全体として年貢の減免を求めたり、村請（年貢の納入を村全体で請け負うこと）を行ったりする自治能力が備わっていきました。
問11	答え 1 尚巴志	中山の王であった尚巴志は、武力によって各地の勢力を滅ぼし、沖縄島の統一を成し遂げました。この統一によって琉球王国が誕生し、中国の明との冊封関係を通じて、東アジアの国際秩序の中に組み込まれていくこととなりました。
問12	答え 2 馬を利用して陸上の物資輸送を担い、時には徳政一揆の中心勢力にもなった	馬借は交通の要所に集まって組織化されていたため、強い団結力を持っていました。そのため、凶作や借金に苦しむ農民たちが徳政（借金の帳消し）を求めて起こした「土一揆（徳政一揆）」の際には、その輸送網や組織力を活かして一揆の先導役や中心勢力として活動しました。他の選択肢は、それぞれ「問（問丸）」「座」「土倉」に関する説明です。
問13	答え 1 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。	義満は経済的な利益を重視し、明の皇帝に臣下としての礼をとることで「日本国王」として認められました。これにより、幕府が貿易の実権を独占し、莫大な利益を背景に強力な権力を行使することが可能になりました。